

多様性を尊重する心 vol.1

ジェンダーアイデンティティについて学ぼう



個性や違いを尊重し合い、誰もが自分らしく、安心して生きていける、そんな温かい社会を目指して「多様性を尊重するシリーズ」を始めます。知らないうちにまわりの人を傷つけてしまうことがないように、常に最新の情報にアップデートさせていく必要があります。第1回のテーマは、「ジェンダーアイデンティティ」です。

ジェンダーアイデンティティとは？

ジェンダーアイデンティティとは、「自分自身がどの性別であるか」という、心の性別認識（心の性）のことです。これは、生物学的な性別（体の性）や出生時に割り当てられた性別とは必ずしも一致しません。「男性」「女性」だけでなく、そのどちらにも当てはまらない、あるいは流動的に変化する人もいます。すなわち、ジェンダーアイデンティティは、多様に存在するのです。

シスジェンダー

生まれたときに割り当てられた性別と、自身のジェンダーアイデンティティが一致している人。

トランスジェンダー

生まれたときに割り当てられた性別と、自身のジェンダーアイデンティティが一致しない人。

Xジェンダー

自身を男性、女性のどちらにもあてはまらない、または両方の要素をもつと認識している人。日本国内で独自に使い始められた言葉。性自認のあり方は、性別がない（アジェンダー）、男性でも女性でもある（バイジェンダー）、性別が流動的（ジェンダーフルイド）など、多岐にわたる。

5 ジェンダー平等を実現しよう



LGBTQ+とどう違う？

ジェンダーアイデンティティは、性のあり方を構成する一つの要素である一方、LGBTQ+は、「性的指向とジェンダーアイデンティティという、性のあり方を構成する複数の要素に基づいて分類された人々のグループを指す総称」であり、ジェンダーアイデンティティとは意味合いが少し異なります。ジェンダーアイデンティティは、その人個人の心の認識であり、その認識が多数派ではない場合、LGBTQ+という総称の一部に含まれるという関連性があります。具体的には、LGBTQ+のうち「T（トランスジェンダー）」や「Q（クィア/クエスチョニング）」の一部の人々は、このジェンダーアイデンティティの多様性に関係すると言えます。

私たちにできることは？

ジェンダーアイデンティティへの理解を深めるために、私たちはまず「性別は男女の二つだけではない」という認識をもつことです。これは、**生物学的な性別（生まれつきの性、体の性）と、心の性（ジェンダーアイデンティティ）は必ずしも一致するわけではない**という多様性を認めることにつながります。

「男の子だから」「男のくせに」「女の子なのに」…といった表現は、知らず知らずのうちに他者を傷つけてしまっている場合があります。そういった言葉を意識して使わないようにするだけでも、他者のジェンダーアイデンティティを尊重する姿勢を示すことになります。また、記事で紹介したような基本的な知識を身に付けることが第一歩です。分からないことがあれば、ぜひ本やインターネットで調べてみるとよいでしょう。

おわりに

「当たり前」を少し見直してみる。「違い」を否定するのではなく、知ろうとしてみる。そんなあなたの小さな一歩が、誰もが自分らしく、安心して生活できる新潟県をつくる力になります。一人一人の意識の変化が、県民全体の Well-being を高める一助になります。この NEWS LETTER が、多様な性について考えるきっかけになれば幸いです。

★新潟県の生涯学習の情報なら

ラ・ラ・ネット

検索

お問い合わせ：新潟県立生涯学習推進センター TEL 025-284-6110

『NEWS LETTER』バックナンバーはこちら ▶

